

【先週のメッセージより】 マタイ 11:28~30

「重荷を神に委ねて生きる」

古代人も現代人もみな、疲れ、重荷を負って来たがその原因は何であろうか？ 先ず考えられるのは ① 他人、自分への無理な期待、人間関係ストレス、次に ② 明日の家賃、食べ物、ガソリン代、さらに③自分の愚かさ、失敗、罪の重み、など挙げられる。

● **疲れの根本的な原因・・・高ぶり、罪の本質とその結果** いろいろな疲れの原因がその根本の原因は、墮落と樂園追放にある。人は神に従わないことを選んでしまったため、神が本来負って下さる様々な責任を自分の身に負ってしまったのである。親が負うべき責任を子供に負わせるなら、子供の人生は苦しみに溢れたものになってしまう。親はそのようなことを決して願っていないが、子供がどうしても家出に固執するなら親は涙を飲んで子供に自由にさせるのである。人類の歴史とはこれと同じで、負い切れない重荷を負わされ、その重圧に苦しみ、責任転嫁を繰り返してきた歴史である。

● **イエス様の命令と約束** 主イエスはそのような重荷に苦しむ私たちに「わたしのところに来なさい」と命じられ、従う人には「わたしがあなたがたを休ませてあげます。」と約束された。これはイエス様の「神宣言」の一つと考えられるが、この約束が真実であるからこそ、キリスト教信仰は二千年間も続いてきているのである。

● **イエス様のくびきを負うとはどういうこと？** イエスのもとに行き、休みを得た者にイエスは一緒に歩もう、と語りかけてくださる。イエスは「わたしのくびきを負いなさい」と命じられたが、これは一緒に、あなたの人生の荷物を運ぼう、あなたと一緒に働こうとの語りかけである。「主のくびきは負いやすく、荷は軽い」とはすばらしい約束である。

● **イエス様のところに日々行こう！** ■

【歌】 父の涙 (by 岩瀬 まこと)

心にせまる父の悲しみ
愛するひとり子を十字架につけた
人の罪は燃える火のよう
愛を知らずに今日も過ぎて行く

十字架からあふれ流れる泉
それは父の涙
十字架からあふれ流れる泉
それはイエスの愛

父が静かにみつめていたのは
愛するひとり子の傷ついた姿
人の罪をその身に背負い
父よ、かれらを赦してほしいと

十字架からあふれ流れる泉
それは父の涙
十字架からあふれ流れる泉
それはイエスの愛

十字架からあふれ流れる泉
それは父の涙
十字架からあふれ流れる泉

